



Marine  
Stewardship  
Council



# MSCサステナブルな白身魚年報 2025

市場データ、イノベーション、および海を守るパートナーの声

# サステナブルな白身魚：世界の水産業を牽引

白身魚は地球上で最大級の資源量を誇り、世界中の消費者に豊富な水産物を供給しています。低炭素の貴重なタンパク源を維持し、海洋生態系の健全性を確保するためにも、白身魚漁業を持続可能な形で管理することは極めて重要です。

白身魚はMSCプログラムにおける先駆的な魚種であり、2024年には600万トン超の白身魚がMSC認証取得漁業、あるいはMSCプログラム参加漁業によって漁獲されました。この年報では、世界トップクラスの漁業管理と慣行を長年にわたって継続している漁業を取り上げ、その功績を評価しています。

こうした白身魚漁業の多くが、責任ある漁業のための世界で最も厳格かつ認知されているMSC漁業認証を15年以上維持しています。この揺るぎない取り組みにより、世界60カ国以上への安定した原料供給が確保されています。これらの市場では、持続可能な水産物の成長基盤が築かれており、ほかの魚種を対象とする漁業のMSCプログラムへの参加や認証取得を後押ししています。

認証水産物への需要が高まる中、より多くの漁業が持続可能性の向上を目指しています。「MSC漁業認証取得に向けた改善プログラム」(MSC改善プログラム)は、こうした改善の信頼性を実証し、MSC漁業認証取得への明確な道筋を示すことで、持続可能性の向上に向けた取り組みを進めていくものです。市場においては、調達方針にMSC改善プログラムを加えて供給の条件とすることで積極的な貢献につながります。

持続可能な調達に関する主張や漁具による環境への影響についての分析が国際的に注目される中、MSC認証取得漁業がどのように管理されているかについて、具体的かつ科学的な根拠を示すことが重要です。

MSCは、世界で最も優れた管理が行われている白身魚漁業と連携できることを誇りに思います。パートナーの皆さまの尽力と献身的な取り組みにより、MSC認証の白身魚のサプライチェーンは、四半世紀前に比べてより強固なものになりました。誰もが水産物を楽しみながら、海の未来を守る役割を果たすことができるのです。

# MSC認証取得漁業による白身魚漁獲量の増加

78%

世界の白身魚の漁獲量のうち、  
MSC認証取得漁業による漁獲量

5%

世界の白身魚の漁獲量のうち、  
漁業改善プロジェクト(FIP)に  
参加している漁業による漁獲量

17%

世界の白身魚の漁獲量のうち、  
MSC認証取得漁業、認証審査中漁業、  
FIP参加漁業のいずれにも該当しない  
漁業による漁獲量

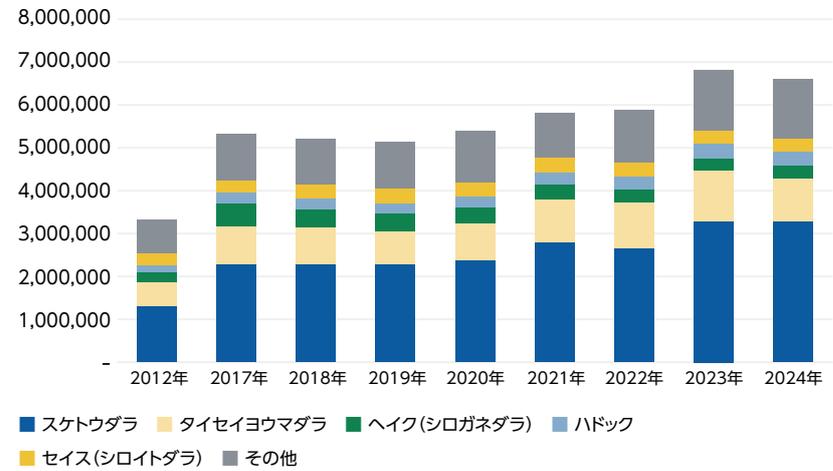
MSC改善プログラム参加漁業および認証一時停止中の  
漁業による漁獲量を除く

「MSC認証は、手頃で便利な水産物でも持続可能で責任ある漁業から調達できることをお客様に理解していただくための鍵なのです」

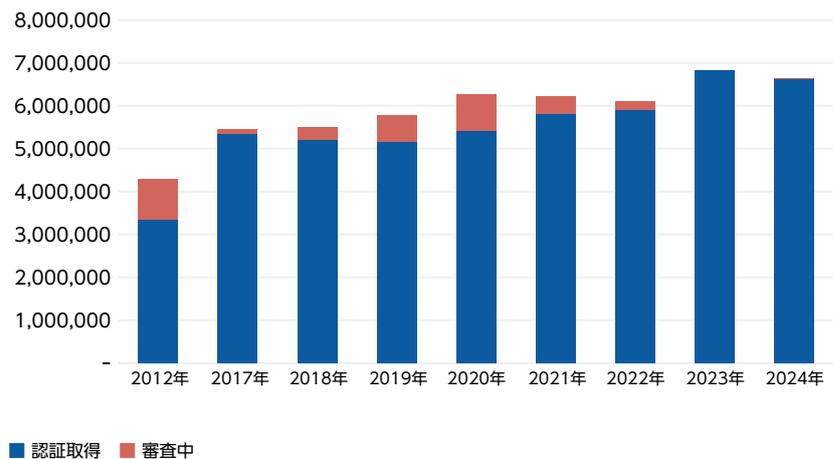
Viciunai UK & Ireland社  
マネージング・ディレクター  
ポール・アグニュー氏

このページに掲載されている漁業データは  
2024年12月31日時点のものです。

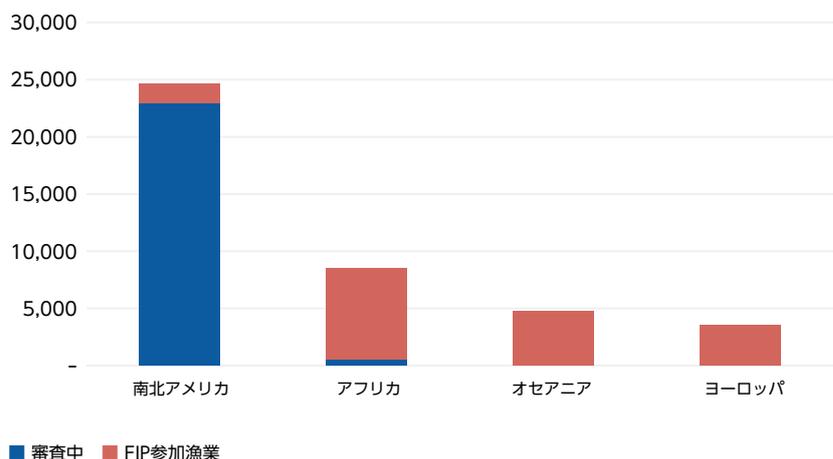
MSC認証取得漁業による白身魚漁獲量(トン)



MSCプログラム参加漁業による白身魚漁獲量(トン)

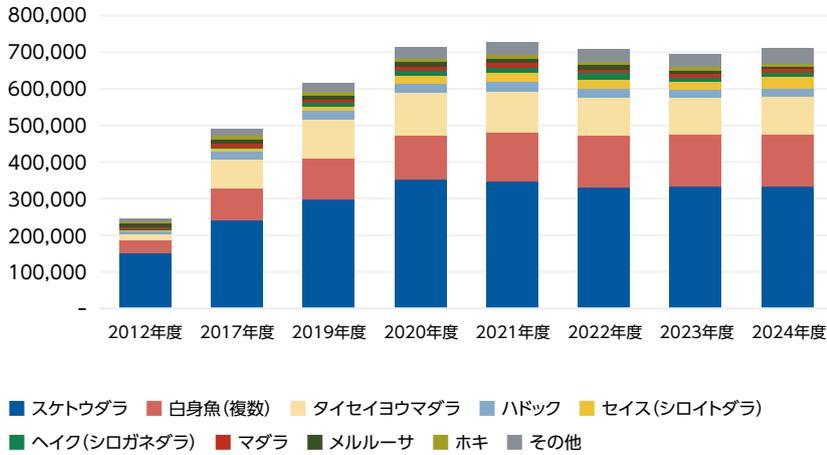


MSC漁業認証取得を目指す漁業による白身魚漁獲量(トン)



# 勢いのある市場

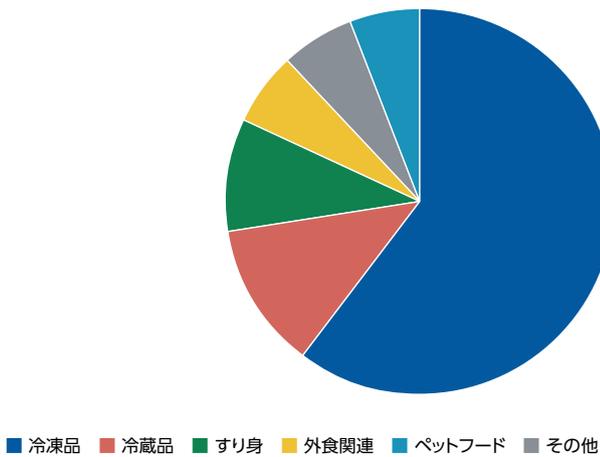
MSCラベル付き白身魚製品の重量 魚種別(トン)



MSCラベル付き白身魚  
販売重量上位10カ国

国名	白身魚重量 (トン, 2024年度)
ドイツ	121,134
フランス	108,085
イギリス	98,778
アメリカ	72,576
イタリア	47,972
複数国	31,878
ポーランド	20,047
オランダ	18,730
スペイン	17,648
スウェーデン	15,558

MSCラベル付き白身魚製品 製品形態別 2024年度



このページのデータは2025年6月30日時点のものです。2024年度の数値には予測値が含まれます。



# 世界におけるMSCラベル付き 白身魚製品の市場と魚種

564

MSCラベル付き  
スケトウダラ製品を  
販売する水産メーカーの数

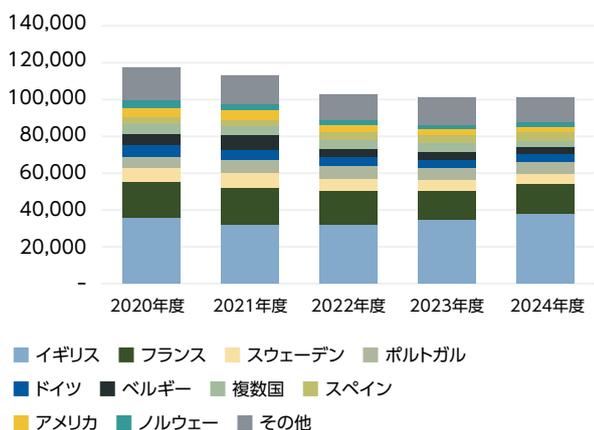
559

MSCラベル付き  
タイセイヨウマダラ製品を  
販売する水産メーカーの数

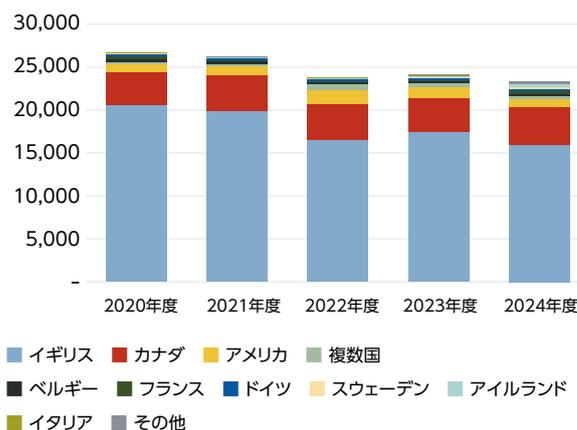
194

MSCラベル付き  
セイス(シロイトダラ)製品を  
販売する水産メーカーの数

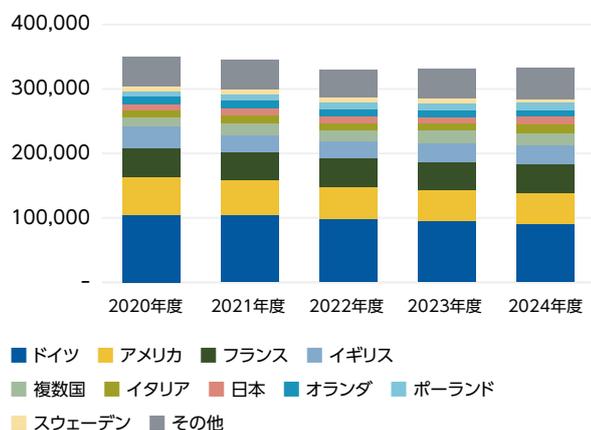
MSCラベル付きタイセイヨウマダラ製品重量(トン)



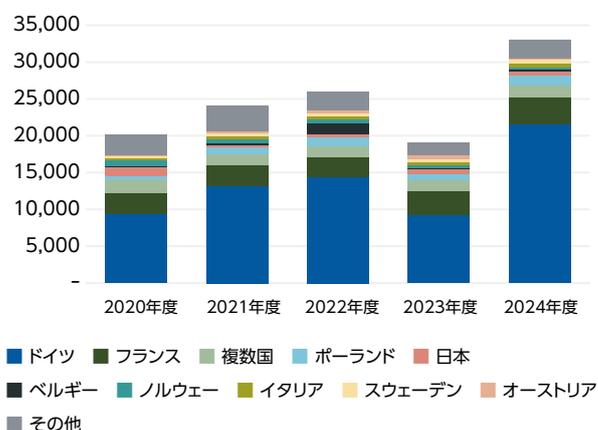
MSCラベル付きハドック製品重量(トン)



MSCラベル付きスケトウダラ製品重量(トン)



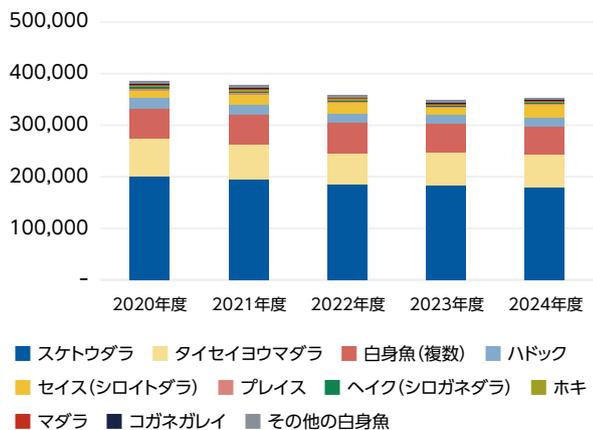
MSCラベル付きセイス(シロイトダラ)製品重量(トン)



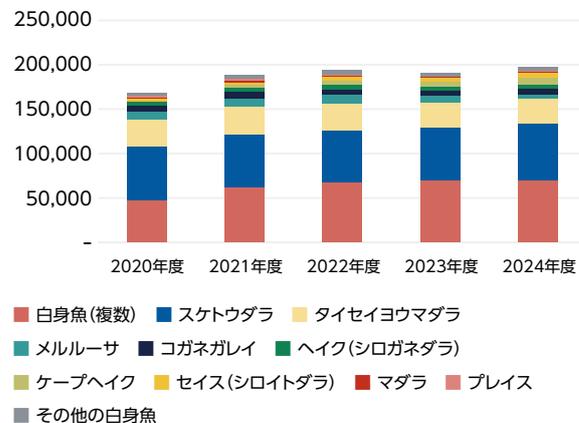
このページのデータは2025年6月30日時点のものです。2024年度の数値には予測値が含まれます。

# 地域別のMSCラベル付き白身魚製品の重量

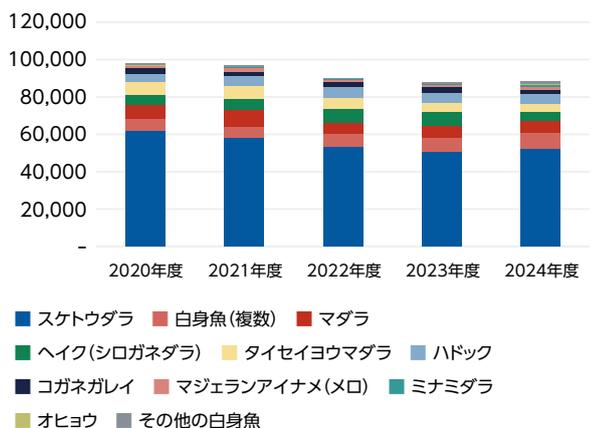
## 北欧、中欧のMSCラベル付き製品の重量(トン)



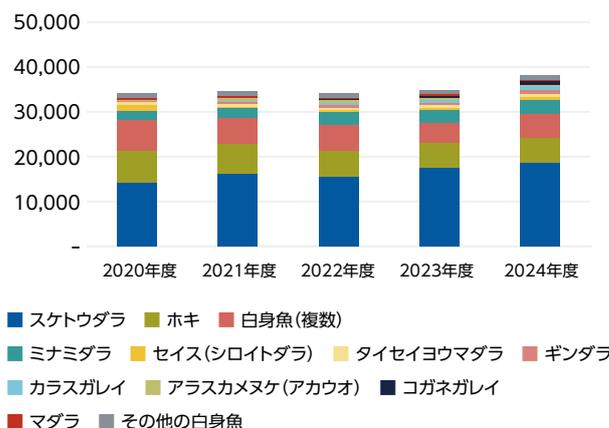
## 南欧、アフリカ、中東、南アジアのMSCラベル付き製品の重量(トン)



## 南北アメリカのMSCラベル付き製品の重量(トン)



## アジア太平洋地域のMSCラベル付き製品の重量(トン)

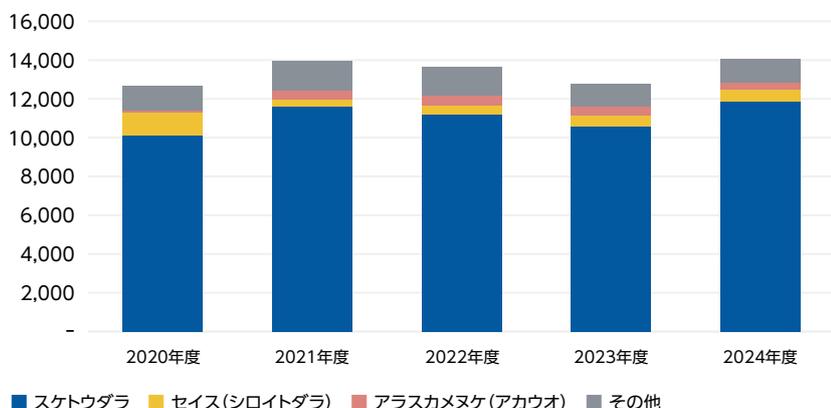


このページのデータは2025年6月30日時点のものです。2024年度の数値には予測値が含まれます。



# 日本におけるMSCラベル付き白身魚製品の動向

日本におけるMSCラベル付き白身魚製品の魚種別販売重量(トン)



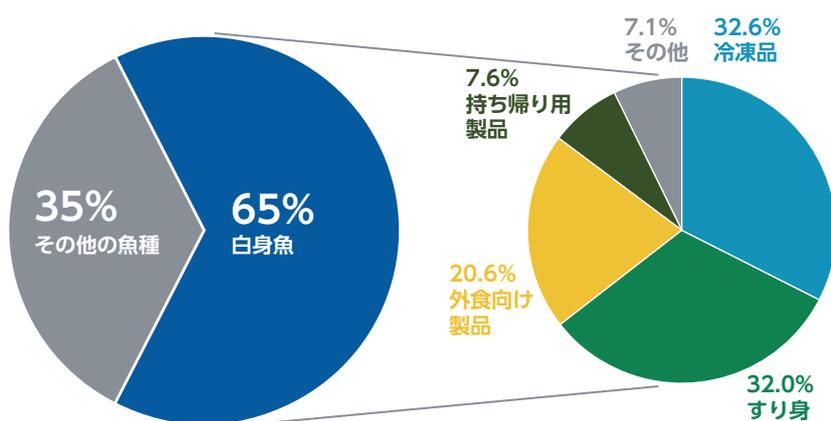
2024年度に日本国内で販売された消費者向けMSCラベル付き製品の重量は約21,000トンで、そのうち白身魚関連製品の重量は約14,000トンと、全体の65%以上を占めています。

新型コロナウイルスの感染拡大やインフルエンザなどの影響により、ここ数年、MSCラベル付き白身魚関連製品の重量はやや減少傾向にありましたが、2024年度は前年度比10%増となり、2021年度と同水準まで回復しました。

魚種別に見ると、白身フライ、練り製品、魚卵製品などに使用されるスケトウダラが圧倒的に多く、2024年度は白身魚製品全体の約85%を占めています。次いで、セイス(シロイトダラ)が多く、2021年度の約350トンから2024年度には約560トンへと増加しています。アラスカメヌケ(アカウオ)がこれに続き、約400トンで推移しています。

白身魚関連製品をカテゴリー別に見ると、加工済み冷凍品(白身フライ、煮つけ、切り身など)およびすり身製品(ちくわ、フィッシュソーセージ、カニかまなど)が多く、それぞれ32.6%、32.0%を占めています。これらに次いで外食向けの製品(白身フライ、切り身など)が20.6%、持ち帰り用製品(おにぎりなど)が7.6%となっています。

日本におけるMSCラベル付き白身魚製品の製品形態別販売重量の割合



# 2030年への道筋

MSCは2030年までに世界の天然水産物漁獲量の3分の1以上をMSCプログラム参加漁業によるものにするという目標を掲げており、その達成において白身魚は極めて重要な魚種です。白身魚はMSC創設後の早い時期から、水産物が持続可能でありうることを実証するために不可欠な魚種であり、ほかの漁業の認証取得を促す基盤となってきました。

白身魚の種は多様であり、MSCプログラムには60種を超える白身魚が含まれています。現在、MSC漁業認証取得、審査中、または認証取得を目指すMSC改善プログラムに参加している漁業によって漁獲された水産物の総重量の半分以上を白身魚が占めています。

## 模範的な漁業

長年にわたり高いレベルの漁業管理を維持してきた白身魚漁業は、持続可能な水産物の世界市場の拡大に貢

献してきました。過去5年間では、認証を取得した白身魚漁業に付与された計147の条件への対応に向けた改善措置が実施され、生態系と生息域、絶滅危惧種・保護種の保全や、混獲の削減に寄与しました。

2030年に向けて、MSCはこれらの漁業による改善と進捗を分析し、MSCの目標を達成するための取り組みに活かしていきます。

## 目標の達成

2030年に向けた目標は野心的なものですが、世界人口が増加し続ける中、健康的かつ生産時の二酸化炭素排出量が少ないタンパク源を供給するためには達成しなければならない目標です。MSCプログラムに参加している363(認証単位数)の白身魚漁業は、世界の食糧安全保障に貢献し、白身魚漁業で生計を立てる人々を支えることができます。





「MSC認証ラベルは単なるラベルではありません。それは、Wiley's Finest社のフィッシュオイルが責任ある漁業によって漁獲された魚を原料としていることをお客様に約束するものです。当社がMSC認証を最も長く保持しているサプリメント企業であることを誇りに思います。MSC認証は持続可能な漁業に関する世界最高水準の認証です」

イギリス、Wiley's Finest社、  
マネージングディレクター  
ポール・ファーカー氏

MSCの目標を達成することで、SDGs(国連の持続可能な開発目標)の目標14「海の豊かさを守ろう」にも大きく貢献することができます。水産物の中でも主要な魚種である白身魚は、その目標を達成するための中核を成しています。

### 課題の克服

それでもなお、逆風に直面することもあります。海では、生態系の変化と気候変動によって水産資源の移動がこれまで以上に起きています。このような脅威に対処する場合、特に管轄海域について考慮しなければならないときには、慎重な管理が求められます。

市場の観点においては、近年のインフレ、物価の高騰、そしてサプライチェーンの混乱が、水産業界と消費者の双方に大きな影響を与えています。それでも、冷凍や冷蔵といった特定のカテゴリーの白身魚製品の販売は堅調を維持しています。

### 協力して取り組む

白身魚漁業がMSC漁業認証規格を満たしているのは、認証取得漁業にとって核となる要素を理解し、持続可能性への継続的な取り組みを実証するために、水産業界と政府が力を合わせてきたからです。白身魚漁業がMSCプログラムに携わりながら、25年以上も発展を続けてきたことは、長期にわたって取り組み続けることの重要性を示すものです。

多種多様な認証の白身魚が市場に供給されることで、持続可能な水産物市場において進展と革新の機会が生まれています。

MSCは大切なパートナーとともに、さらなる成功事例を重ねつつ、新たな市場機会を見出し、次の10年間の課題に取り組みながら、生命にあふれる海を守っていきます。2030年に向けた目標達成に白身魚製品が貢献するために、サプライチェーンにおいてMSCに携わるすべての人々が重要な役割を果たしています。

# 主要な認証取得白身魚漁業

以下の漁業は、15年以上にわたって世界をリードする最優良事例を維持しています。



## ベーリング海・アリューシャン列島およびアラスカ湾のスケトウダラ漁業

認証初取得：2005年5月

漁獲量：1,392,316トン

漁法：中層ひき網

ベーリング海・アリューシャン列島およびアラスカ湾のスケトウダラ漁業はアメリカ最大の漁業であり、MSCプログラムにおいても最大の認証取得漁業です。2005年に11番目となるMSC漁業認証を取得し、現在は4回目の認証更新審査を受けています。



## ニュージーランドのホキ漁業

認証初取得：2001年3月

漁獲量：101,000トン

漁法：底びき網および中層ひき網

2001年、ニュージーランドのホキ漁業は白身魚漁業として初となるMSC漁業認証を取得し、20年以上にわたって世界をリードする持続可能な管理を維持し続けています。本漁業は2025年1月にMSC漁業認証規格第3.1版に基づく認証更新審査に入りました。



## イェルマレン湖のパイパーチ漁業

認証初取得：2006年8月

漁獲量：190トン

漁法：かごおよび刺し網

イェルマレン湖のパイパーチ漁業は、2006年に内水面漁業として世界初のMSC漁業認証を取得しました。その後、認証を3回更新し、その影響を受けたメーラレン湖とヴェーネルン湖のパイパーチ漁業も2017年に認証を取得しました。



## 南アフリカのヘイク漁業

認証初取得：2004年4月

漁獲量：141,500トン

漁法：底びき網

2004年にMSC漁業認証を取得し、3度の認証更新に成功したこの漁業は、生息域の保護、混獲削減に向けた管理強化、ゴーストギア（海中に廃棄された漁具）のリサイクル促進を通じて、持続可能で責任ある漁業を牽引しています。

# 底びき網漁業は持続可能か

## キーワード

**混獲**：サイズの小さい魚や、漁獲枠が割り当てられていない魚種、絶滅危惧種・保護種、その他望ましくない海洋生物など、その漁業では対象としていないものを漁獲すること。

底びき網は、世界で最も一般的な漁法の一つであり、世界の水産物の4分の1が底びき網によって漁獲されています。この漁法では、海底や海底近くをひく網を使用します。底びき網は、大量の水産物を漁獲できる非常に効率的な方法である一方、海洋生息域のかく乱や、対象としていない魚種を意図せず漁獲してしまうリスクもあります。こうした悪影響を回避するために、底びき網漁業の管理を適切に行うことは極めて重要です。

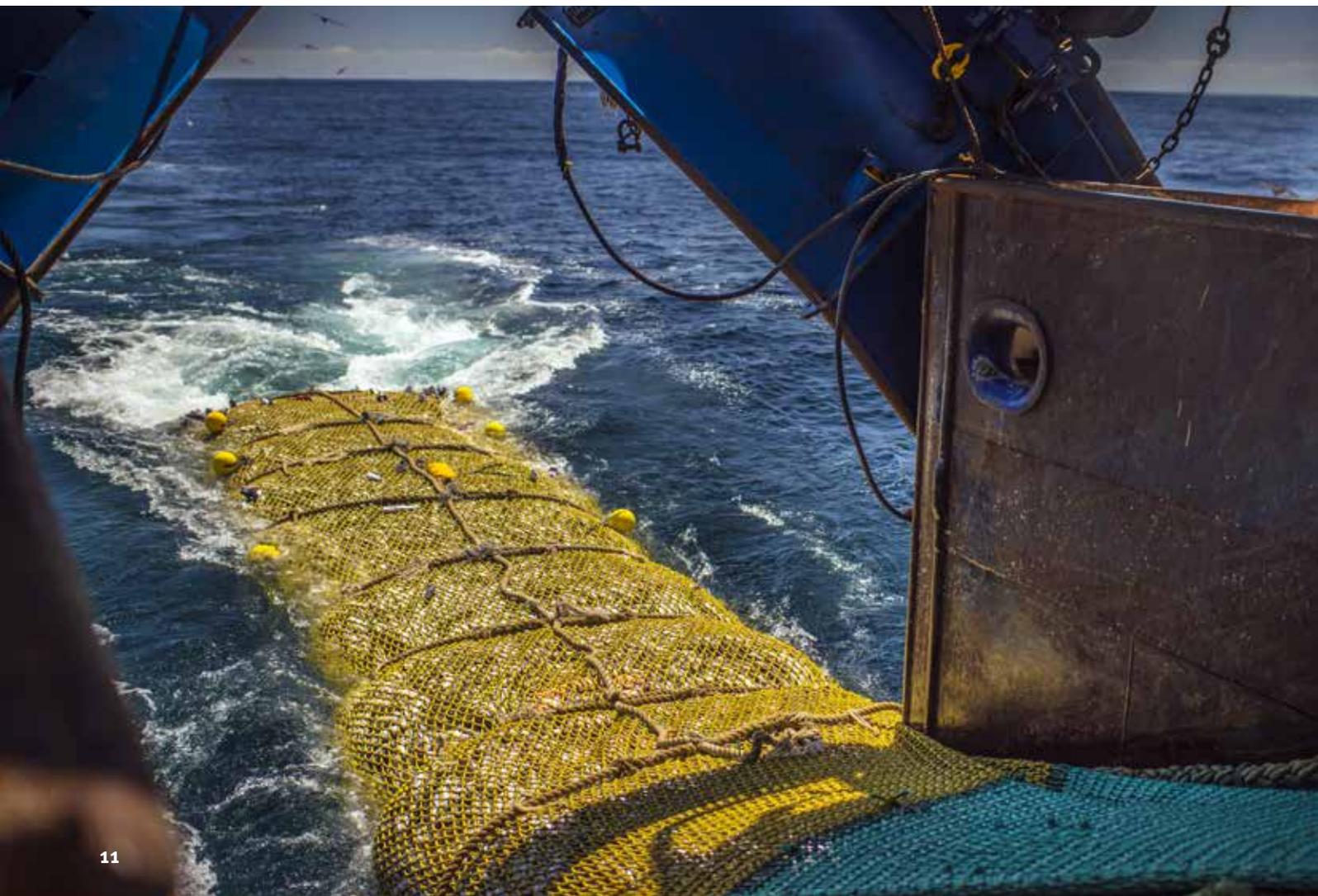
底びき網漁業は、第三者機関の審査により、MSC漁業

認証規格の要求事項を満たした持続可能な漁業と認められれば認証を取得できます。底びき網を使用する漁業がMSC漁業認証を取得できるのは、海底生息域や生物多様性に対して深刻かつ回復不可能な損害を与えていないことを実証できた場合のみです。

幸いなことに、多くの漁業は既にその実証に取り組んでいます。具体的には、漁業が及ぼす影響のモニタリング、漁具の改良、操業海域の調整、混獲の削減、業界全体での協働、環境への影響を管理するための最新科学の活用などです。

## 漁具の革新

MSC漁業認証を取得しているアラスカのカレイ類漁業においては大きな進歩がありました。従来は、海底に直接接触する「スイープ」と呼ばれる長い金属ケーブル付きの底びき網を使用して魚を網へ追い込んでいましたが、





研究者と漁業者が共同開発した、漁具の一部を海底からわずかに浮かせるようにした改良型のスイープを使用することで、海底との接触を90%削減することに成功しました。

この改良型のスイープを用いた網は、対象魚種を効率的に漁獲しつつ、海洋生物や海底との接触を最小限に抑えることができます。漁具の小さな改良が大きな効果をもたらした好例です。

### 脆弱な生息域を回避

脆弱な生息域を回避するためには、正確な場所を特定するためのデータ収集が極めて重要です。

海底地図の作成技術と衛星による船舶追跡の進歩によって、漁業者は脆弱な生息域の位置を特定し、操業による生息域への影響を最小限に抑えるために漁業慣行を適応させることができるようになりました。

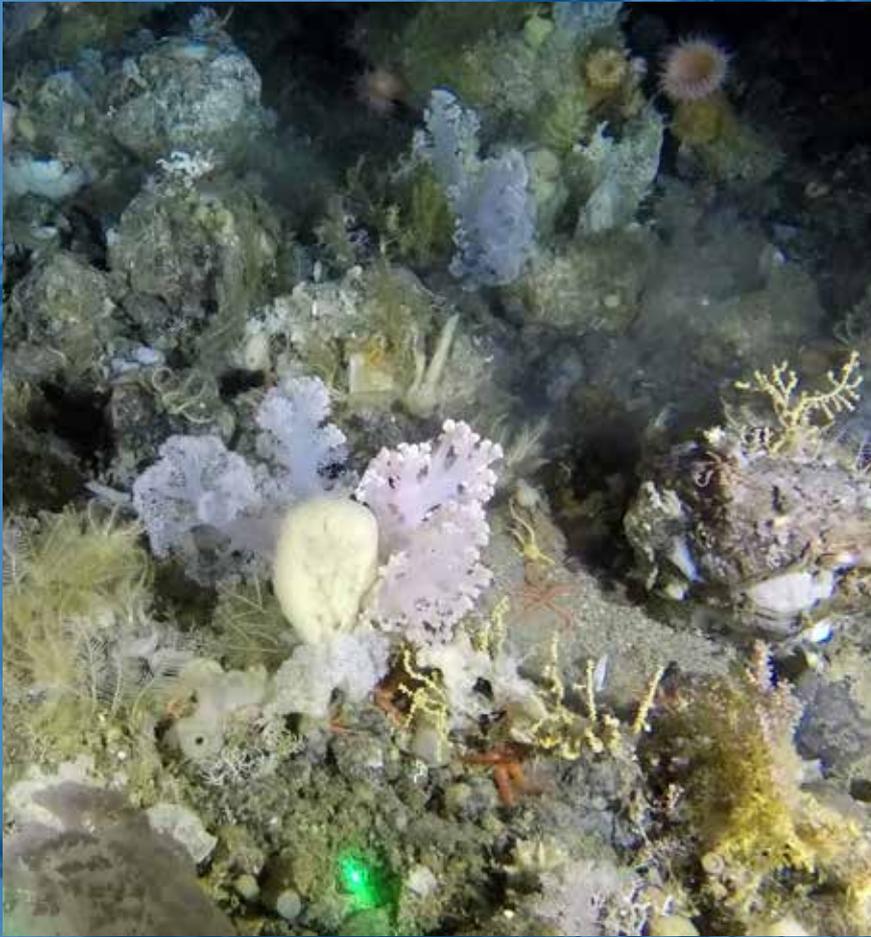
政府や地域漁業管理機関が底びき網を恒久的に禁止としている海域がある一方で、水産業界が主導して

いる取り組みもあります。例えば南アフリカ底びき漁業連合(SADSTIA)によるMSC認証取得ヘイク漁業は、2007年に底びき網の操業範囲を自主的に凍結し、既存の底びき網操業海域外での漁獲を行わないことに合意しました。また、底びき網の操業範囲に沿って設置された12の海洋保護区(MPA)でも底びき網は禁止されています。このような自主規制は、持続可能性に関して業界が主導して取り組めることを示しています。

### 混獲削減装置

多くの漁業では、混獲を減らすために漁具を改良しています。どの非対象種が混獲されるリスクがあるのか、またそのような混獲を回避する方法について理解することも重要です。

アラスカのカレイ類漁業を代表する団体であるアラスカシーフード協同組合は、シャチが漁具に絡まるのを防ぐために漁具の改良を進めています。改良には網の開口部を覆う音響反射性メッシュが採用され、カレイ類の漁獲率に影響を与えることなくシャチの侵入を防ぎます。



「底びき網を使用するMSC認証取得漁業では、2001年以降、環境パフォーマンスに関する935件の改善が実施されています。そのうち、過去3年間(2022年~2025年)で136件の改善が行われ、その中の39件は絶滅危惧種・保護種に関連し、37件は生息域と生態系に関わるものでした」

## ゴーストギア

ゴーストギアとは、海に流出、または廃棄された漁具のことで、際限なく海洋生物を捕獲し続けることとなります。ゴーストギアは、絶滅危惧種が絡まったり、サンゴ礁を損傷させたり、深刻なプラスチック汚染問題をさらに悪化させたりする可能性があります。

多くの漁業は、漁具の管理の改善と流出防止に取り組んでいます。南アフリカのヘイク漁業もその一例であり、オーシャン・アクション・ネットワークおよびオーシャン・プラスチック・テクノロジーズと提携し、漁具回収や廃棄の適正化を促進する制度を導入しました。ケープタウンの主要港には使えなくなった漁網のリサイクルを促す回収所が設置されています。この取り組みは廃棄漁具による環境被害を最小限に抑えるだけでなく、循環型経済の実践と持続可能な廃棄物管理を推進しています。

## MSCによる奨励

MSC認証の取得は、底びき網漁業による海洋環境への影響の軽減につながります。多くの漁業ではMSCの漁

業認証規格を満たすために改善が必要とされており、認証取得後も継続的な改善が求められています。

持続可能性は一度きりの対策で済むものではなく、高いレベルの環境パフォーマンスを維持するための取り組みを継続する必要があります。底びき網を使用するMSC認証取得漁業では、2001年以降、環境パフォーマンスに関する935件の改善が実施されています。そのうち、過去3年間(2022年~2025年)で136件の改善が行われ、その中の39件は絶滅危惧種・保護種に関連し、37件は生息域と生態系に関わるものでした。多くのMSC認証取得底びき網漁業は、10年以上にわたって認証を維持しています。

アラスカから南アフリカに至るまでの事例が示すように、漁業者、科学者、政策立案者らが協働することで、真の進歩が可能になります。底びき網漁業の詳細については、以下をご覧ください。

[底びき網\(MSCウェブサイト\)](#)



Marine  
Stewardship  
Council



ニュースレターの  
お申込みはこちら



@MSC\_Japan



@MSCJapan



@mscjapan

画像の著作権は特に明記されていない限り、MSCが有しています。表紙画像：iStock  
本報告書のデータは特に明記されていない限り2025年6月30日時点のものです。

© Marine Stewardship Council 2025. Registered Charity number: 1066806. Registered Company number: 3322023.